

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091400228		
法人名	社会福祉法人実寿穂会		
事業所名	グループホームポート野芥		
所在地	福岡市早良区野芥8丁目7番1号		
自己評価作成日	令和5年10月10日	評価結果確定日	令和5年12月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先 http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_keyword_search=true

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡市南区井尻 4-2-1	TEL:092-589-5680	HP:http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和5年11月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

入居者様が「今を生きる」を理念に、ご自分の存在についてどのように感じ、どのように活かそうとしているかを知るよう努めています。さらに、ご本人の「やりたい・できるかもしれないこと」や楽しみにしていることを引き出すために、支援を行い、お一人お一人の「思い」や家族の「願い」を実現するケアを実践しています。ご家族や地域の皆様と協力しながら、あたたかく安心できる暮らしを創造することを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム「ポート野芥」は平成27年に開設された。閑静な住宅街の一角にあり中庭を中心に「煌」「雫」の2ユニットからなる。お一人お一人の「思い」や家族の「願い」を実現するケアを実践している。事業所内にサークル「女子会」があり歌を唄い楽しんでいる。家族の訪問もできるようになり、地域の夏祭りには利用者も参加したり、文化祭の際には、利用者の絵を出展した。ご家族や地域の皆様と協力しながら、あたたかく安心できる暮らしを創造することを目指している。今後ますます地域福祉の拠点として、活躍が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の基本理念である「今を生きる」を中心に、各ユニットごとに具体的な目標を設定しています。施設理念は事務所内で目に触れやすい場所に掲示し、またユニット会議などで唱和し、共有し、日常の実践に落とし込んでいます。これにより、入居者の方々と職員が共通の目標を持ち、共に向かって努力し、支え合いながら暖かく、充実した生活を送ることができる環境を提供しています。	「今を生きる」の理念は事業所内の目の触れやすい場所に掲示している。各ユニット会議で唱和し共有している。ユニットごとに具体的な目標を設定している。生活の中での楽しみ・役割・車いすの方でもできることを見つけるなど日常の実践に落とし込んでいく。利用者・職員が共通の目標を持ち、共に努力し支え合いながら、暖かく充実した安心できる暮らしを創造することを目指し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや文化祭など、様々なイベントに積極的に参加しています。これらのイベントは、自治会や子供会との協力のもとで毎年開催されています。イベントの開催については、関係団体と綿密な相談を重ね、地域の皆さんと一緒に計画し実現しています。こうしたイベントは、地域との結びつきを深め、入居者の方々とともに楽しい思い出や交流の場となっています。	自治会には入会しており回覧はある。夏祭り・文化祭など、様々なイベントに積極的に参加している。毎日利用者と一緒に散歩を楽しみ、地域の方から暖かい声かけをもらっている。地域の老人クラブからの講話依頼に応じ計画作成者が高齢者施設や介護サービスについて話をさせてもらった。公民館で「ぶらりカフェ」が開催される。公民館長が交代されており、現在、信頼関係を構築中であり、今後も地域との結びつきを深めていくように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎日、入居者の方々と一緒に散歩を楽しんでいます。地域の皆様から温かい声掛けをいただき、地域コミュニティとの絆を大切にしています。また、地域の老人クラブからの講話依頼にも応じ、高齢者施設や介護サービスについてお話をさせていただいています。地域の皆様との交流を通じて、より良いサービス提供に努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議を開催しています(出席できない方は状況報告書を郵送)。この会議では、入居者の状況やサービス提供に関する報告を行っています。また、ご家族や地域の方とも情報交換ができるよう配慮しています。地域包括支援センターからは、認知症の方の対応について勉強会の開催のお手伝いを行いました。地域との連携を大切に、円滑な情報共有を心がけています。	2ヶ月に1回、会議を開催している。家族には持ち回りで出席してもらう。薬局の方・職員の参加で行った。活動状況・入居者状況・地域交流などに関する報告を行い、意見交換をする。議事録は家族・役所・地域包括支援センターなどに送付しており、家族・地域の方とも情報交換ができるよう配慮している。地域包括支援センターからの認知症の方の対応について勉強会の開催の手伝いを行った。家族からは訪問の是非についての問い合わせが多かった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議議事録や広報誌を送付して、現状を把握してもらっています。また、地域包括支援センターの主催により、認知症の方の対応についての勉強会の開催のお手伝いを行いました。地域との協力を通じて、より質の高いサービス提供を目指しています。	運営推進会議の案内や議事録・広報誌を送付し、現状を把握してもらっている。市への問い合わせはメールで行なっている。介護保険の申請は送付している。地域包括支援センターから困難事例の相談があり、入居に繋がったこともある。事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室の鍵を持ちたい入居者の方には、鍵を持っていただいています。また、居室内の吐き出し窓については、基本的には施錠を行っていません。入居者の個々のニーズや希望に柔軟に対応し、安心して生活できる環境を提供しています。	離設はない。散歩のときに近隣の方と挨拶・声かけをしてもらうことで、事業所の住人であることを解ってもらっている。玄関に行き外に行こうとしている時は理由を聞き、一緒に散歩する。身体拘束虐待防止委員会は年4回行っている。身体拘束高齢者虐待についてのアンケートを職員に行ってもらい、具体的な行為を正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。アンケートの作成は管理者が行った。	

R5.11.17「自己・外部評価票(グループホームポート野芥)」確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	計画作成担当者には、事故およびリスクマネジメントに関する研修を実施し、それを通じて計画作成担当者が習得した知識やスキルをOJTを通じて職員に伝えています。また、職員は外部研修にも積極的に参加し、ユニット会議を通じて得た知識を共有しています。特に虐待の予防については見逃さないように配慮する事で、安全で信頼性のある環境を提供するための体制を構築しています。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の申請と、後見人2人・保佐人1人の指定を受けた入居者がいます。施設からの提案に基づいて、入居者が後見制度を利用することが決まりました。施設では、入居者の福祉と安全を最優先に考え、必要なサポートを提供しています。	成年後見制度の利用者が2名、保佐人の利用者が1名、現在説明中の方が1名いる。ホーム長が外部の任意後見人であり制度については詳しい。説明はホーム長が必ず行っている。パンフレットは用意してある。職員も利用している方を通し、制度について学ぶ機会があり、制度の理解はできている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要な事項を丁寧に説明し、了承を得た上で契約を行っています。制度改正や施設の方針変更などがある際には、これらの変更点を説明し、同意書を用いた承諾を得ています。入居者との透明性のあるコミュニケーションを大切に、信頼関係を構築しています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価アンケートの結果を重視しており、ご家族のご意見を積極的に反映させています。また、日常的に家族の方々との連絡を取り、入居者の状況を密に報告し、ご意見や要望を伺うように努めています。入居者と家族の方々との信頼関係を築きながら、より良いサービス提供を目指しています。	職員は利用者を1～2名担当しており、毎月手紙と写真を送付し、日頃の様子・状況について報告している。また、日常的に家族の方々との連絡を取り、意見・要望を聞き取っている。計画作成者が、気が付いたことがある時は、すぐに家族に連絡を行う。顧客満足度アンケートは手渡しを中心に、郵送にも行った。外部評価のアンケートにおいても、家族の意見を積極的に反映させ、より良いサービス提供を目指している。	事業所の取り組み方、対応のきめ細やかさに対して、喜びの言葉がアンケートに見られる。今後もより良いサービス提供を目指されることを期待している。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人事担当者が定期的に施設に訪問し、職員とコミュニケーションを取りながら、意見交換や提案を聞き取る取り組みを実施しています。職員の声や意見を直接聞くことができ、職場の改善や効果的な人事政策の実施につながっています。従業員の声を尊重し、働きやすい環境を共に作り上げる努力が、施設の運営と職員のモチベーション向上に繋がっています。	月1回のユニット会議やミニカンファでも意見交換を行う。申し送りノートを活用することもある。食事形態をミキサー食からムース食に変更するようになった。意見も言いやすく、話やすく、検討し対応してもらっている。働きやすく、充実感や満足感を得ながら働いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりが年間目標を設定し、半年に一度の面談でその達成状況や勤務状況を確認しています。定期的な面談を通じて、職員は自身の目標達成度や職務遂行の問題点を把握し、必要なサポートやトレーニングを受けています。また、適切な評価とフィードバックは、従業員が働きやすい職場環境を実感し、仕事に対する満足度を高めるのに繋がっています。定期的な面談を通じて職員とのコミュニケーションを密にし、職場の良好な雰囲気と働きやすさに繋がっています。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	様々な年齢層の職員がおり、男女を問わず採用しており、面接の際には介護への関心や働く意欲、向上心などを考慮して採用しています。また、各職員には個人目標を設定してもらい、それに向けて働けるよう、アドバイスや研修への参加を奨励しています。こうした取り組みは、職場の多様性を尊重し、各職員が自身のスキルやキャリアを伸ばし、共に成長できる環境を提供することを目指しています。	職員の年齢層は幅が広く、外国からの実習生もあり、お互いに向かい合いながらよいコミュニケーションが持てている。年2回個人面談があり、個人目標を立てそれに向けてアドバイスをもらったり、研修に参加している。休憩室・休憩時間もある。「料理が得意・安心して入浴を楽しんでもらう・心配り・心配りをいつも念頭に置いている」などそれぞれ得意な能力を発揮して生き生きと勤務している。研修を受ける機会もあり、薬剤師が事業所に見え感染症の話をしてもらった。各職員が自己研鑽を積み、目標を目指している。	

R5.11.17「自己・外部評価票(グループホームポート野芥)」確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ウェブ上で人権学習に参加し、人権に関連する虐待などについて学んでいます。また、人権啓発活動のビデオを視聴して勉強しています。全職員がアクセスできるように、ウェブ研修を実施しています。これにより、職員全員が人権に関する知識を共有しています。	副ホーム長がウェブにて人権研修に参加し、内部研修を行った。各職員はeラーニングで学んでいる。人権啓発活動のビデオを視聴し勉強をしている。職員全員が人権に関する知識を共有している。人権教育・啓発活動において、内部監査が今年から行われるようになり、改善するべきところは改善している。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員教育のスケジュールに基づき、各職員の目標を設定し、個々の能力に応じて互いに確認できるようなチェック表を作成しています。必要であると判断される外部研修や法人での研修に積極的に参加し、職員のスキル向上を図っています。また、ベトナム人・ミャンマー人の技能実習生を受け入れて、国際交流や多文化環境での協力を促進しています。これにより、職員の専門知識や技能の向上をサポートし、施設のサービス向上に貢献しています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連施設であるポート賀茂の計画作成担当者とは相互訪問などを通じて交流し、お互いの施設の質を向上させるための相談を行っています。また、グループホームのネットワークに積極的に参加し、意見交換や施設間の交流の場として活用しています。これにより、他施設との連携を深めながら、より良いサービス提供に向けた知識や情報を共有し、利用者の生活の質を向上させる取り組みを行っています。		
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設入居を検討されている方の「本人の思い」を確認するために、「24時間暮らしの情報シート」をご家族に記入していただいています。入居前に訪問調査や情報収集を行い、これまでの暮らしの継続を尊重し、ご本人の要望に最大限対応できるよう努めています。これにより、入居後もなるべくご自身のライフスタイルや希望に沿った生活を提供することを目指しています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居を検討される方には、可能な方には施設見学にお越しいただき、事前に楽しみや要望をお聞きしています。また、契約前のオリエンテーションでは、ご家族とのコミュニケーションを大切に、関係性を構築する際に役立てています。これにより、入居者ご本人やご家族の「本人の思い」をより具体的に把握し、それに基づいたサービス提供に努めています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の思いを基に、ご家族と施設が一体となり、入居者の未来に幸せを願い、今必要とされるサービスを提供しています。このチームの連携により、より質の高いケアとサポートを提供できるよう努めています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の暮らしの継続を大切にし、「今を生きる」という意識を持っています。入居者一人ひとりには、得意なことや楽しみを持ち、お互いに学び合い、励まし合いながら生活を共有しています。このような信頼関係の中で、入居者の生活がより充実したものになるよう支援を行っています。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプランには家族の役割を明確に記載し、家族の方も積極的にケアに参加いただけるように促しています。また、家族の皆さんと共に思い出に残る瞬間を作り出すよう努めています。ご家族の気持ちに共感し、ご本人を中心に据えたチームとして、より良い関係性を築けるよう心がけています。		

R5.11.17「自己・外部評価票(グループホームポート野芥)」確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の思いを大切に、夢実現をサポートするために、馴染みの場所や行ってみたい場所への訪問を実現できるよう取り組んでいます。また、夢実現のイベントや外出には、家族の方々にも積極的に参加していただくようお願いしており、遠方への外出の際には、家族からの同行依頼を受け入れています。こうした協力を通じて、入居者の特別な瞬間を共有し、共に喜びや思い出を築いています。	友人の訪問があり、10数年ぶりに会い喜びにあふれていた。昔よく訪問していた懐かしい商店街に行った。県外のお墓参りに利用者・家族・職員と一緒に行くプランも予定されている。「夢実現」に向けて家族などにも協力してもらい、本人が大切にしてきた馴染みの人・場所との関係が途切れないように支援をしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士のコミュニケーションを促進するために、職員が介在して会話をサポートしています。また、編み物や洗濯物たたみなどの活動が得意な方々は、職員と共に行いながら、お互いに支え合える環境を提供しています。こうした活動を通じて、入居者同士が絆を深め、共に過ごす喜びを分かち合えるような場を提供しています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族には、定期的に連絡を取り、入居後の様子をお伺いしています。また、看取りの際には、ご家族が希望される場合には特別な日に訪問し、初盆には心を込めて線香をお送りしています。こうした配慮を通じて、退居後も入居者とご家族の絆を大切に、温かなサポートを提供しています。		
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に、ご家族に向けて24時間暮らしの情報シートを使用し、アンケート調査を実施しています。この調査結果を基に、入居後も今までの生活スタイルに変化をもたらさず、入居者が自分らしい生活を続けられるよう努めています。また、入居後も入居者の生活パターンに合わせて、必要に応じて24時間シートを変更し、本人の意向を尊重したケアを提供しています。	インテークは利用者宅・施設・病院などに副ホーム長・計画作成者が訪問する。24時間暮らしの情報シートを使用し、本人・家族の思いをくみ取り、本人がよりよく暮らすための課題を利用者本位の視点に立ち回り、意向の把握に努めている。思いを表出することが難しい方には、表情・仕草などからくみ取るようにしている。職員は2~3名の利用者を担当し本人の希望・意向の把握に努め、カンファレンスにて情報を共有する。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者が自宅での生活と同じような時間の流れを維持できるよう、入居前から「24時間暮らしの情報シート」と「嗜好調査」を活用して情報を収集しています。これらの情報をもとに、入居後も入居者が慣れ親しんだ生活リズムを尊重し、日常の中で同じような暮らしを送れるよう配慮しています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの個々のペースや生活リズムを尊重し、入居者の表情や言動に注意を払い、現状を把握するよう心がけています。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	24時間シートから得られた本人の「できること・できるかもしれないこと」を、カンファレンスなどで話し合い、ケアプランの作成に活かしています。また、ユニット会議や申し送りなどで寄せられた意見を検討し、これを24時間シートに反映させ、定期的に更新を行い、入居者の現状に適したケアが提供できるよう努めています。	24時間暮らしの情報シートから得られた本人の「できること・できるかもしれないこと」をカンファレンスで話し合い、計画作成担当者がケアプランを作成する。目標には本人の思いや言葉が直接反映されるようにしており、「夢実現」に事業所全体で取り組んでいる。担当者会議では本人・家族の思い、要望と共に、医療機関などからの情報をふまえて反映させ、現状に即した介護計画を作成している。日々の実施については、電子記録と、24時間シートにより把握でき、ケアプランと実施記録は紐づいている。	

R5.11.17「自己・外部評価票(グループホームポート野芥)」確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の入居者の様子を個別記録に詳細に記入し、もし気づきや異常があれば申し送りノートにも記入しています。これらの情報は職員同士で定期的に話し合い、共有しています。これにより、入居者の状態を細やかに把握し、適切なサポートを提供できるよう努めています。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の体調や状況に合わせて、食事の形態を柔軟に変更しています。また、入居者が好きなものを提供し、その時々合った食べる楽しみを提供しています。入居者が食事を楽しむことで、心地よい食事体験を提供し、生活の質を向上させることに努めています。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏祭りや文化祭など、様々なイベントに積極的に参加しています。これらのイベントは、自治会や子供会との協力のもとで毎年開催されています。イベントの開催については、関係団体と綿密な相談を重ね、地域の皆さんと一緒に計画し実現しています。こうしたイベントは、地域との結びつきを深め、入居者の方々にとって楽しい思い出や交流の場となっています。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続受診を希望される方については、ご家族の意向を尊重し、かかりつけ医との連携を維持しています。また、提携している訪問診療や訪問歯科サービスを契約し、入居者の日常の様子や体調の変化を共有し、連携を図っています。これにより、入居者の健康状態を的確に把握し、適切な医療・歯科ケアを提供する体制を整えています。	かかりつけ医の継続受診または提携医の訪問診療について家族の希望を大切にしている。提携している訪問診療は月2回・訪問歯科は週1回。夜間は看護師が対応している。緊急連絡網もあり、提携医には24時間連絡ができる。他科受診は家族・職員が同行している。利用者の健康状態は職員全員で把握し、適切な医療を受けられるように支援をしている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の入居者の状況を注意深く観察し、訪問診療の際に必要な情報を提供し、入居者の健康状態やケアに関する相談や助言を受けています。このような連携により、入居者の健康管理に関する綿密な情報共有が行われ、的確な医療サービスの提供が可能となっています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際には、医療機関との情報提供と共有を行っています。また、入院中の入居者が不安を感じないように、スタッフや管理者がお見舞いに訪れる配慮をしています。入退院の際の状況や入居者の健康状態を注視し、医師やソーシャルワーカーと連携し、退院後のサポートや今後の方針について慎重に話し合っています。これにより、入退院プロセスがスムーズで、入居者の健康と安全を確保することに繋がっています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年1人の入居者の看取り介護を行いました。契約時には、病状が重度化した場合や終末期の状態について、入居者とご家族に詳しく説明し、最適な提案を行っています。主治医とも綿密な連携をとりつつ、入居者の最期の時をできるだけ安心して穏やかなものにするために努力しています。	今年1名様の看取り介護を行った。契約時に看取りの説明は行い、重度化した場合には医師を交え再度話し合いを行う。訪問看護との連携も医師の指示のもとで行われている。終末期には医師が毎日様子をうかがってくれる。終末期の状況について医師と家族は話をされ、職員も共有する。職員には看取り介護が必要となった時に、しっかりと研修を行う。利用者の最期の時をできるだけ安心して穏やかなものにするため努力している。	

R5.11.17「自己・外部評価票(グループホームポート野芥)」確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、これを施設内の目に付く場所に掲示しています。これにより、職員が緊急の状況に遭遇した際には、迅速かつ適切な対応ができるようにしています。安全確保のため、このマニュアルの内容は職員に周知徹底されています。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを策定し、定期的に総合防災訓練を年に2回、日中と夜間の想定を含めて実施しています。訓練では通報装置の取り扱いや水消火器の使用方法など、具体的な対応手順を訓練しています。災害時に備え、法人の管理栄養士の助言を得て、備蓄品を備えています。これにより、入居者と職員の安全を確保し、災害発生時にスムーズな対応ができる体制を整えています。	災害対策マニュアルは策定している。総合防災訓練を年2回日中・夜間の想定を含め実施している。地震・水害を想定しBCP(業務継続計画)を作成提出した。避難場所のルートを確認した。車いすを車に乗せ避難場所の小学校までいくなど訓練を行った。備蓄品も備えている。来年度は地域への防災訓練への参加及び事業所での防災訓練への参加を、お願いしようと思っている。	地域への防災訓練に参加、又地域の方に事業所の防災訓練に参加してもらうことを期待している。
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月のユニット会議では、ユニットチェックを実施し、入居者の気持ちを尊重し、配慮ある声かけや言葉遣いを心がけています。プライドを傷つけないように配慮し、個人情報の取り扱いについても細心の注意を払っています。家族への日常の状況報告時には、プライバシーを守るために別室で行うよう配慮しています。これにより、入居者とその家族が安心して生活できる環境を提供しています。	毎月のユニット会議では、ユニットチェックを実施している。利用者の気持ちを尊重し、配慮ある声かけ・言葉遣いを心がけている。写真を含め個人情報の取り扱いについても細心の注意を払っている。家族への日常状況報告は別室で行うように配慮している。職員同士でもお互いに声かけ・注意をするようになってきた。虐待防止・接遇マナーなどの研修を行っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の思いや希望に真摯に耳を傾け、日常の会話を通じてできることややりたいことを自己決定できるようにサポートしています。可能性を探りながら、入居者が持つ活力を最大限に引き出すために努力しています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	24時間サポートを基に、入居者の生活の継続を守るために、「食べて・寝起きして・排泄する」という基本に沿ってサポートを行っています。朝の起床や朝食など、入居者の具体的な状態に応じて声をかけ、しっかりと覚醒した後に食事を提供しています。一人ひとりのペースに合わせたケアを心がけています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替える際には、ご本人に選んでいただけるように声かけを行っています。また、整容に関しては、髭剃りや化粧などのサポートを提供し、身だしなみに気を配り、その人らしさを保てるようにしています。個々のニーズに合わせたサポートを提供しています。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関しては、外部業者から納入しています。入居者と職員が協力して、盛りつけや食器洗い、テーブル拭きなどの日常的なことを一緒にしています。また、入居者ができることを手伝ってもらっています。入居者が食べたい物がある場合には、外出支援として外で食事を楽しんだり、ご家族が持参されたりして、食事の楽しみを提供できるよう心がけています。個々のニーズや希望に応じた食事サポートを行っています。	食事は外部業者から納入。食事レクで筑前煮などを作った。利用者には食器洗い・盛り付け・テーブル拭きなどできることを一緒に行なってもらう。誕生日にはスポンジケーキに飾りつけなどを一緒に行なう。家族と一緒に寿司を食べに行ったり、自分でサラダを作り、パンを用意して朝食を楽しんでいる方もいる。食事形態はムース食・ミキサー食・きざみ食などその方にあった食事を提供している。事業所の菜園から白菜・キャベツ・キュウリ・トマトなどを収穫し食事の彩とするなど、食事が楽しみなものになるように支援を行っている。	

R5.11.17「自己・外部評価票(グループホームポート野芥)」確定

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量については、細かく記録を残して、一日のトータルが把握できるようにしています。特に、病状によって水分制限が必要な方については、職員間で情報共有を行い、適切なサポートを提供しています。 補食に関しては、入居者の好みや習慣に合わせ、家族と協力しながらサポートを行っています。本人の好きな食べ物を準備し、食事環境や状況に応じた支援を提供しています。個々のニーズや健康状態に合わせて食事サポートを大切にしています。			
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア体制支援加算の算定を行っています。訪問歯科医による口腔ケア講習を全職員が受講し、入居者それぞれが毎食後にご自身で歯磨きを行った後、職員が口腔内を確認して磨き残しがないようにサポートしています。入居者の口腔健康を維持し、適切なケアを提供することに努めています。			
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間シートを基に、入居者の暮らしの継続を尊重しています。入居者の生活パターンを「食べて・寝起きて・出す」を基準にし、定時の誘導ではなく、本人の排泄パターンに合わせて声かけを行っています。また、リハビリパンツからコットンパンツへ戻すなど、入居者の個々のニーズに合わせた配慮を行っています。生活の質を維持しつつ、入居者が快適に過ごせるよう努めています。	24時間シートを基に本人の排泄パターンに合わせて声かけを行っている。声かけは何気なくするようにしている。声かけを行なうことで、失禁が軽減した。パッドの見直しなどは、気が付いたときに話し合う。便秘の対応には食事摂取量・水分量などをチェックし便通をよくする腸活の工夫も行っている。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄・褥瘡予防委員からの提案を元に、入居者の便秘改善のための運動や水分量の確保、便通を良くする腸活の工夫を行っています。定期的に入居者の排泄の変化を確認し、必要に応じて適切な対応を行っています。24時間シートにもこれらの情報を反映させ、入居者が安心して過ごせる環境づくりに努めています。			
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の日程はあらかじめ決められていますが、具体的な入浴のタイミングは入居者に伺って決めていただいています。夜間を除く時間帯にお好きな時に入浴していただけるように柔軟に対応しています。毎回の入浴ではお湯を新しく入れ替え、湯温や入浴時間なども入居者の希望に添えるように調整しています。このような情報は24時間シートに記載され、ケアの統一を図るために活用されています。入居者の個々のニーズや希望に合わせたサポートを提供することで、快適で安心な入浴環境を提供しています。	週2回入浴の機会があるが、状況により本人の希望に沿い対応している。24時間シートにより湯温・入浴時間などの情報を取り入れ利用者の希望に添えるように調整している。シャンプー・リンスなど好みを使用する事ができる。季節の湯として菖蒲湯・ゆず湯などを楽しむこともある。皮膚の状態を観察し異常のあった時は、写真を撮り医師・看護師などに報告する。入浴の時間は、コミュニケーションの場として大事にしている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	24時間シートを活用しながら、入居者が自宅と同様の環境で生活を続けられるよう配慮しています。入居者の日中の活動状況に合わせて、適切な休息の時間を設け、必要なサポートを提供しています。これにより、入居者が日常生活の中で安心感を持ち、自分らしい生活を維持できるように			
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局との連携を通じて、入居者の薬物療法に関するサポートを強化しています。薬の一包化や服用しやすい形態への変更、効能や副作用の共有、薬の変更に関する確認などを職員間で行い、入居者が適切な薬物療法を受けられるように配慮しています。これにより、入居者の健康と安全を守るための体制を整えています。			
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の暮らしの継続を大切にし、本人の意向や好み、そしてできることを尊重しながら支援を行っています。入居者の願望や夢を大切にし、それを実現するためのサポートを提供しています。こうしたアプローチにより、入居者がより充実した日々を過ごせるようになっています。			

R5.11.17「自己・外部評価票(グループホームポート野芥)」確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者との日常の会話を通じて思いを理解し、夢や希望を実現するための支援を行っています。毎月、買い物や外出、食事やドライブなど、入居者が楽しんでいる活動を計画し、実現しています。また、玄関周りの工夫やベンチの設置など、入居者が安心して外出や休憩を楽しめるように配慮しています。これにより、入居者がより充実した日常を過ごせる環境を提供しています。	個別の対応をメインにしており、本人の気持ちに沿いながら、毎日散歩に行っている。「夢実現」として買い物レクを行った。2~3人で近くの公園でおやつ・飲み物を楽しんだ。車でコスモスを見に行ったり、事業所の花壇などにひまわり・コスモスが咲き、季節の花を楽しんでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の希望があれば、自身の財布にお金を所持することができます。買い物や外出の際に、所持金を使用して支払いができるようにサポートしています。これにより、入居者は自分の選択や趣味に応じた活動を自由に楽しむことができます。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居時の契約の際、入居者とご家族との連絡方法について話し合い、入居者がご家族とコミュニケーションを取りたい場合には、電話をかけることができるようサポートしています。また、特別なイベントや季節の挨拶など、入居者の方々がご家族に対して年賀状や残暑見舞いを送りたい場合にも、そのお手伝いをしています。これにより、入居者は家族との絆を保ちながら、施設内での生活を楽しむことができます。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	煌ユニットでは和モダンな雰囲気重視し、しつらえのコンセプトとして普通の家の玄関をイメージしています。また、零ユニットでは緑のある洋風の雰囲気を演出しています。食堂やリビングでは、入居者がくつろげるような配置を心掛け、季節の生花を飾ったり、オルゴールや昔の名曲を流す際には音量にも配慮しています。これにより、居住者は自宅のような居心地の良い環境で暮らすことができ、日常生活をより豊かなものになっています。	煌ユニットは和モダン・零ユニットは緑のある洋風の雰囲気があり、普通の家にいるようなしつらえのモダンなリビングである。テーブルの配置もリビングのくつろぎの空間を考えて置かれている。文字と背景のコントラストにより、見やすく認知症の人にやさしいデザインを取り入れている。事務所を中心に2ユニットが配置され、中庭には利用者が植えたパンジーが小さな可愛い花をつけ彩を添えていた。オルゴールや昔の名曲が流れ、明るい日差しが差し込み、穏やかな午後を思い思いにすごしている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットごとに食事の場、くつろぎの場、記録の場といった異なる場面を設けることで、入居者は好きな場所でくつろぎや他の入居者と交流することができます。また、気の合った入居者同士が話を楽しむ場面や、独りで静かにくつろぐ場面を提供するために、適切な椅子やソファを配置しています。これにより、入居者は自身のニーズや好みに合わせて過ごすことができ、居心地の良い環境で日常生活を楽しむことができます。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が居心地の良い環境で過ごせるように、入居時には馴染みのある物を持参いただくことを奨励しています。また、できる限り自宅に近い環境を提供するために、入居者やご家族と綿密な相談を行い、部屋の配置についても配慮しています。毎月、ユニット会議内で入居者の個々の部屋について評価を行うことで、入居者らしいお部屋づくりに努めています。入居者が自分の部屋で快適に過ごせることは、心地よい生活環境を提供するうえで重要な要素です。	居室は十分な広さがあり、採光もよい。ベッド・クローゼットなどは備え付けてある。入居時には馴染みのあるテーブル・テレビ・冷蔵庫などを持参されている。仏壇を持ってこられた方もいる。家族の写真を飾ったり、好きな音楽を聴いたり、自分なりの心安らぐ部屋作りをして穏やかな時間が持っている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニットごとに、食事の場・くつろぎの場・記録の場として環境を整え、入居者が日常生活を快適に送れるよう配慮しています。中庭をパブリックスペースとして提供し、入居者同士がくつろげる場所となっています。ここでは洗濯物を干したり、乾いたのを確認して取り込むなど、日常生活に必要な活動が行えるように支援しています。また、建物全体に手すりを設置することで、バリアフリーな環境を実現し、入居者の自由な移動をサポートしています。これにより、入居者は安心して施設内を移動し、必要な活動を行うことができます。		